

連産
廃全
総時
定会

「ネットワーク化に取り組む」

専務理事に森谷賢氏

(公社)全国産業廃棄物連合会(石井邦夫会長)の第3回定時総会が6月14日、東京・港区の明治記念館で開催された。石井会長は「(処理業界は)循環型・低炭素社会構築に必要な健全な発展と生活環境

の保全にまい進していく」と述べた。議事では、仁井正夫専務理事をはじめ役員が退職に伴う補充選任が行われた。新しい専務理事に森谷賢氏(元環境省関東環境事務所長が、副会長に石元速雄氏



石井邦夫会長

(一社)高知県産業廃棄物協会会長)がそれぞれ就任。全産廃連青年部協議会の元会長、加藤宣行氏(一社)東京産業廃棄物協会常任理事)が新理事に就任した。総会には石破茂氏(自民党幹事長)、梶原茂元氏(環境省廃棄物・リサイクル対策部長)が来賓であり、石破氏は、経済対策の重要性を確認するとともに、「処理業界が望む税制改正などにも取り組む」と述べた。梶原氏は、東日本大震災以降、被災地の災害廃棄物の処理で処理業界の協力を得ていることに謝意を表すとともに、原発事故に伴う放射性物質汚染廃棄物については「大きな課題であり、全力で取り組む」と述べた。

午後6時から懇親会が開催され、南川秀樹(環境省事務次官)ほか関係者が詰めかけた。南川氏は自走式作業機械設備について法定耐用年数のさらなる短縮が要望されていることに触れ、前向きに取り組む考えを示した。